

今津 景 タナ・アイル Kei Imazu Tanah Air



1. 《Memories of the Land/Body》2020 油彩、キャンバス 300x600cm タグチアートコレクション photo: 木奥恵三 courtesy of The Artist and ANOMALY

現在拠点にしているインドネシアと自身のルーツである日本の二つの土地での経験と思考に基づき、自らが生きる場所について考える初の大規模個展。

今津景（1980- ）は、インターネットやデジタルアーカイブといったメディアから採取した画像を、コンピュータ・アプリケーションで加工を施しながら構成、その下図をもとにキャンバスに油彩で描く手法で作品を制作しています。

今津は、2017年インドネシアのバンドンに制作・生活の拠点を移しました。近年の作品は、インドネシアの都市開発や環境汚染といった事象に対するリサーチをベースにしたものへと移行しています。それらは作家自身がインドネシアでの生活の中でリアリティを持って捉えたものです。同時に、今津は現在起きている問題の直接的な表現にとどまらず、さまざまなアーカイブ画像を画面上で結びつけることで、インドネシアの歴史や神話、生物の進化や絶滅といった生態系など複数の時間軸を重ね合わせ、より普遍性を持つ作品へと発展させています。地球環境問題／エコフェミニズム、神話、歴史、政治といった要素が同一平面上に並置される絵画は、膨大なイメージや情報が彼女の身体を通過することで生み出されるダイナミックな表現です。

本展は、近年国内外で注目を浴びる今津の初めての大规模個展です。タイトルにある「タナ・アイル」とは、インドネシア語で「タナ(Tanah)」が「土」、「アイル(Air)」が「水」を指し、二つの言葉を合わせると故郷を意味する言葉になります。現在生活するインドネシアと自身のルーツである日本という二つの土地での経験と思考にもとづく今津の作品は、鑑賞者に対しても自らが生きる場所について考える契機となることでしょう。

展覧会名：今津景 タナ・アイル（英語表記 Kei Imazu: Tanah Air）

会期：2025年1月11日(土)-3月23日(日) *61日間

会場：東京オペラシティ アートギャラリー(ギャラリー1, 2)

開館時間：11:00-19:00(入場は18:30まで) 休館日：月曜日(祝休日の場合は翌火曜日)、2月9日(日曜日・全館休館日)

入場料：一般 1400 [1200] 円/大・高生 800 [600] 円/中学生以下無料

*同時開催「紙の上の芸術 | 収蔵品展 082 寺田コレクションより」、「project N 97 福本健一郎」の入場料を含みます。

* [] 内は各種割引料金。 * 障害者手帳等をお持ちの方および付添1名は無料。 * 割引の併用および入場料の払い戻しはできません。

主催：公益財団法人 東京オペラシティ文化財団

協賛：日本生命保険相互会社

協力：アノマリー、ROH

助成：公益財団法人大林財団、令和6年度 文化庁 我が国アートのグローバル展開推進事業

お問合せ：050-5541-8600 (ハローダイヤル)

本展覧会のキーワード

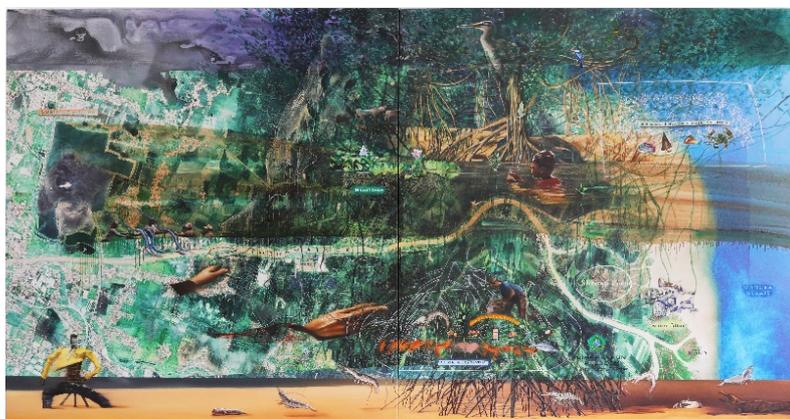
今津の作品には、さまざまなメディアから採取した画像がモチーフとして採用されます。特にインドネシアに移住した後は、その土地で経験した様々な事柄、インドネシアの歴史や神話、都市開発や環境問題に関するイメージが画面に配置されています。ここでは、今津の作品を読み解くいくつかのキーワードを紹介します。

① 神話「ハインウエレ」

インドネシア・セラム島の神話。ハインウエレとは、ココナッツから生まれ、自分の排泄物から異国の宝物を生み出す力を持つという女性の名前です。その神秘的な力を恐れた男たちによって生き埋めにされてしまいますが、彼女の遺体を切断し土地に埋めると、そこからさまざまな芋が育ち、島の人々を支えたといわれています。今津はこの神話を、フェミニズムや植民地史などさまざまな角度から読み解き、さらに自身の出産といった個人的な体験と結びつけます。



2. 《Hainuwele》2023 油彩、ジュート 350×800 cm トムルン美術館(インドネシア)
courtesy of The Artist and ROH



3. 《When Facing the Mud(Response of Shrimp Farmers in Sidoarjo)》油彩、アクリル、泥、UVプリント、キャンバス 194×388 cm 2022 個人蔵 courtesy of The Artist and ROH



② 開発と環境汚染

インドネシアで生活する今津にとって、先進国により繰り返される資源の収奪や、その結果生じている地球規模での環境問題は、日々リアリティを持って捉えられるものです。今津は「世界でもっとも汚染された川」と呼ばれるチタルム川や、シダルジョの天然ガスの採掘現場でおこった泥火山の噴出とそこで暮らす人々の生活など、現地を取材した作品を制作しています。

③ 日本とインドネシア

インドネシアは、近代にはオランダの植民地とされ、また第二次世界大戦時には日本の占領下におかれました。今津は、さまざまな歴史資料のイメージを画面上に引用することで、現在生活するインドネシアと自身のルーツである日本との関係を批判的に思考し、自らの立ち位置を確かめるように絵画を制作しています。

4. 《Anda Disini (You are here)》2024 油彩、キャンバス 300×200 cm 作家蔵
courtesy of The Artist and ROH
5. 《Curiosity cabinet from Ambon》2022 油彩、キャンバス 194×194 cm
TAKEUCHI COLLECTION courtesy of The Artist, ANOMALY, and ROH

④ 平面から空間へ

近年、今津の創作は絵画に留まらず、3Dプリンターによる巨大な立体作品や、インスタレーションなど空間へと展開しています。本展覧会でも、バンドンで行われていたというマラリアの特効薬であるキナの栽培をめぐる、新作インスタレーションが展示されるほか、会場内には骨格標本や土器などの巨大な彫刻が点在します。会場全体を通して今津の作品世界をお楽しみいただけます。

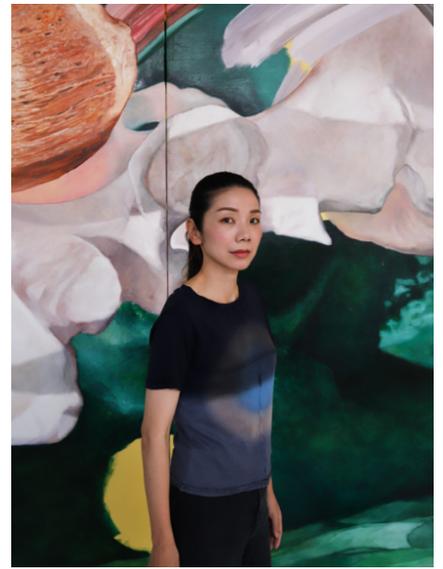
6. 《Bandoengsche Kininefabriek》2024 ミクストメディア サイズ可変 作家蔵
courtesy of The Artist and ROH



今津 景 略歴

1980年山口県生まれ。インドネシアのバンドン在住。2007年に多摩美術大学大学院美術研究科を修了。2009年「VOCA2009」佳作賞、2013年絹谷幸二賞奨励賞を受賞。

国内では、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」(森美術館)や、「あいちトリエンナーレ 2019」などの展覧会に参加。2020年フランスの「Prix Jean François Prat」ファイナリストに選出され、2022年には「ドクメンタ 15」に参加。2024年には、「昌^{チャンウォン}原彫刻ビエンナーレ」(韓国)、バンコク・アート・ビエンナーレ(タイ)に参加するなど、国内外で大きな注目を集め、精力的に活動を行っている。



広報用画像



7



8



9



10



11

7. 「Anda disini / You are here」カスヤの森現代美術館展示風景 2019 photo: 岡田顕 courtesy of MUSEUM HAUS KASUYA

8. 「unearth」ROH (インドネシア) 展示風景 2023 courtesy of The Artist and ROH

9. 《Decoupling》2016 油彩、キャンバス 116×80 cm 個人蔵 photo: 木奥恵三 courtesy of The Artist and ANOMALY

10. 《RIB》2021 油彩、キャンバス 200×300 cm フィンク・コレクション photo: 木奥恵三 courtesy of The Artist and ANOMALY

11. 《Last Universal Common Ancestor》2022 油彩、キャンバス 201×135.5 cm Obayashi Collection photo: 三嶋一路 courtesy of The Artist and ANOMALY

■本展覧会に関するお問い合わせ

東京オペラシティ アートギャラリー 【展覧会担当】瀧上華 【広報】市川靖子、吉田明子

Tel : 03-5353-0756 Email : ag-press@toccf.com